

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

患者・家族・市民ががん治療病院選択にあたって求める情報に関する調査研究

研究分担者 八巻知香子 国立がん研究センターがん対策研究所 がん情報提供部 室長
研究協力者 齋藤弓子 国立がん研究センターがん対策研究所 がん情報提供部 特任研究員

研究要旨

患者が適切な情報に基づき病院を選択することは、受療満足度や医療の質を高めるといわれている。しかし、がん患者や家族が治療病院を決定する際にどのような情報を求めているのかは十分に明らかになっていない。本研究では、がん患者・家族・市民が、がん治療病院の選択時にどのような情報および情報源を参考にした/するかを明らかにし、拠点病院等における病院選択に資する情報提供のあり方について検討した。

ウェブ調査会社のパネル登録者856名にウェブアンケートを行った。アンケートは自分または家族ががんに罹患した経験がある場合には、その経験について、ない場合には「もし、がんと言われた場合」を想定して回答を依頼した。

治療病院の選択にあたって迷った人は2割程度、何らかの情報を参考にした人も半数であり、すべての人が情報を求めているとは限らなかったものの、治療数や治療成績、医師の業績を参考にした人も多かった。「治療成績」「医師の業績」といった情報は、一元的な指標での表示は困難だが、納得した治療病院の選択のためには患者、家族にわかりやすい形で情報を提供することが求められているといえる。長期にわたるがん治療には通いやすさ等の利便性も重要であることなど、病院選択に必要な要素について十分に知ったうえで、自分が優先したい事項に関する情報が得られる環境づくりが求められると考えられた。

研究目的

がん対策推進基本計画、がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針（以下、整備指針）に沿ってがん診療連携拠点病院・地域がん診療病院（以下、拠点病院等）の整備が推進されている。整備指針により、拠点病院等では自施設で提供可能な診療内容や支援内容、他機関への連携等について、ホームページ等で情報提供することが求められている。一方で、各拠点病院等で対応するがんの種類や治療法、支援内容等について、ホームページ等で公開されている情報には大きなばらつきがあり、必ずしも患者や連携医療機関等のニーズを満たしているとはいえない。

患者が適切な情報をもとに病院を選択できることは、患者の受療満足度や医療の質を高めることにもつながると考えられており（de Cruppé W, Geraedts M.2017）、患者の情報ニーズを適切に把握した上で、病院選択に資する情報の内容・項目や形式を策定し、拠点病院等で公開するよう働きかける必要がある。しかし、実際にがん患者とその家族が、治療を受ける病院をどのように探しているか、治療を受

ける病院を決定する際にどのような情報および情報源を参考にしているか等といった認識は明らかになっていない。

さらにがんにおいては、ほぼ2人に1人が一生のうちのがんの診断を受けると推定されており、潜在的にがん患者や家族となる可能性は高い。そのため、がん患者とその家族のみならず、がんと診断される前段階にある一般市民を対象に、がんと診断された場合の病院選択に関する情報ニーズを把握し、適切な情報提供のあり方について検討する必要があると考えられる。

そこで本研究では、がん患者とその家族および一般市民を対象としたWebアンケート調査により、がんと診断され治療が必要となった場合、どのように病院を探した/探すか、また病院を選ぶ際にどのような情報および情報源を参考にした/するか等の認識を明らかにし、拠点病院等における病院選択に資する情報提供のあり方について検討する。その際、がん以外の大きな病気※と診断された場合の病院選択に関する対象者の認識についても明らかにし、両者の違いについて検討することで、がんと診断され治療が必要となった時の病院選択の特徴を提示すること

を試みる。

がん患者とその家族および一般市民が、自分や家族が、がんと診断され治療が必要となった時に、どのように病院を選択するかといった認識や病院選択に関わる情報ニーズを把握することができれば、患者らが必要とする情報を各拠点病院で公開するための方策の検討に役立てることができる。患者らにとっては、それらの情報を元により自身の生活背景や個人の価値観に沿った病院選択が可能となり、治療満足度の向上につながることを期待される。

B. 研究方法

本研究では、がん対策に関心のある患者・市民を対象としたプレテストの後に、より広い対象に向けた調査を実施した。

調査方法

1) プレテスト

国立がん研究センターでは、同センターの事業や研究への協力者の公募し、多様な人材を任期2年で国立がん研究センター理事長から委嘱する、国立がん研究センター「患者・市民パネル」（以下「患者・市民パネル」）を運営している（八巻, 高山, 2020）。同パネルのメンバーによるプレテストを行い、調査票の内容や表現が妥当であるか、当事者の意見を聴取し、調査票の内容妥当性を評価した。

「患者・市民パネル」事務局から調査協力の依頼を发出し、協力の意思を示した人が、ウェブフォームによるアンケートに回答した。

2) 本調査

民間調査会社に登録するモニターに、メールでWeb回答フォームのURLを提示したメールを发出し、調査協力を依頼し、協力の意思を示した人が、ウェブフォームによるアンケートに回答した。回答依頼は、a.大都市を含むと4都府県、b.大都市のない3県の居住者それぞれ430名から回答が得られるまで募集した。結果として、a)432名、b)424名が回答した。

調査内容

以下の項目を尋ねた。

1) 個人属性（性別、年代）

2) 現在の健康状態（自分や家族の診断歴）

- 「がん（がん以外の大きな病気）」の診断を受けた経験の有無

- 「がん」と診断されたことがある場合：がん種と

診断時期

- 「がん以外の大きな病気」と診断されたことがある場合：疾患名

3) 病院選択に関する項目

- 「がん（がん以外の大きな病気）」の治療を受けた/受けたいと思う病院の情報

（病院所在地：都道府県・市町村、病院

名）

- 上記病院を選択した/する際の主観的困難感

（どのくらい迷うか）

- 上記病院を選択した/する理由と重視すること

- 上記病院を選択した/する際に参考（確認）

した/する情報

4) 病院選択に関わる項目

- 特別なサポートのニーズ（併存疾患の有無や身体的介助の必要性 等）

5) 調査票の内容や表現が適切であるかについての意見（自由記載）

（倫理面への配慮）

調査の目的、利益・不利益、および個人情報の管理等について説明文書によって説明したうえで、調査の協力に同意するかどうかを確認し、同意した者のみが調査項目に進むよう設計した。また、国立がん研究センター研究倫理審査委員会の許可（2023-025）を得て行った。

C. 研究結果

1. 回答者の背景

回答者の背景について、表1-1～1-4に示した。男性56.3%、女性41.4%で、大都市圏、非大都市圏で分布の差はなかった。回答者の年齢は、大都市圏では50歳代が最多、非大都市圏では40歳代が最多で、非大都市圏がやや若年の傾向があった。

回答者には、①自分ががんを経験している場合には、家族ががんを経験しているか否かに関わらず「自身のがん経験」、②自分はがんを経験しておらず、家族ががんを経験している場合には「家族のがん経験」、③自分も家族ががんを経験していない場合には、もし、あなたのがんかもしれないと言われた場合を想定して、「想定」を回答するよう依頼した。「自分のがん経験」について回答したのは217人（25.4%）、「家族のがん経験」について回答したのは253人（29.6%）、「想定」を回答したのは386人（45.1%）であり、居住地による分布の差はなかった。

た。

2. がん治療にあたっての医療機関選択の迷い、 選択した理由、参考にした情報と情報源

(1) 医療機関選択の迷い

がん治療の選択にあたって迷ったかどうかを表2-1, 2-2に示した。「自身のがん経験」については「迷った・やや迷った」が合計24.9%、「あまり迷わなかった・迷わなかった」が、合計62.7%で、居住地域による差はなかった。同様に「家族のがん経験」でも、「迷った・やや迷った」が合計21.5%、「あまり迷わなかった・迷わなかった」が、合計56.7%で、居住地域による差はなかった。

(2) がん治療病院の選択にあたって重視した理由

がん治療病院の選択にあたって重視した理由（複数回答）、最も重視した理由（単一回答）について、図1に示した。

「自身のがん経験」回答群では、「最も重視」した理由は、「がんの診断を受ける前に検査等を受けた別の病院の医師に紹介されたから」（20.3%）が目立って多く、「自分や家族の生活圏にあり通院しやすいから」（8.8%）、「治療のための設備が整っていると思ったから」（8.8%）、「自分がこれまで受診や通院をしたことがあるから」（8.3%）、「専門性が高い医療を提供していると思ったから」（7.8%）、「大きな病院だから」（7.8%）が、ほぼ同割合で続いた。「自身のがん経験」回答群で、「重視した理由」（複数回答）では、「最も重視」した理由として上位に挙げた項目が20%代で並んだ。

「家族のがん経験」回答群の「最も重視した理由」で、10%を超えるのは「大きな病院だから」（11.6%）のみで、「専門性が高い医療を提供していると思ったから」（9.9%）、「がんの診断を受ける前に検査等を受けた別の病院の医師に紹介されたから」（9.6%）、「自分がこれまで受診や通院をしたことがあるから」（9.4%）、「自分や家族の生活圏にあり通院しやすいから」（8.3%）の順であった。「家族のがん経験」回答群で、「重視した理由」（複数回答）では、「大きな病院だから」（35.5%）が最多で、「有名な病院だから」（21.2%）、「専門性が高い医療を提供していると思ったから」（20.7%）の順であった。

「想定」回答群では、「最も重視」した理由は、「専門性が高い医療を提供していると思ったから」（17.1%）、「治療のための設備が整っていると思ったから」（14.2%）、「自分や家族の生活圏にあり通

院しやすいから」（14.0%）の順であった。「想定」回答群で、「重視した理由」（複数回答）では、「自分や家族の生活圏にあり通院しやすいから」（40.2%）、「交通の便が良く通院しやすいから」（39.4%）、「専門性が高い医療を提供していると思ったから」（38.6%）の順であった。

(3) がん治療病院選択にあたって参考にした情報（情報内容）

「自身のがん経験」回答群では、「病院を選ぶとき」に参考にした情報は、「がんの治療件数」（24.9%）、「がんの治療成績」（24.9%）が最多で、「がんの診療科の医師の業績」（23.5%）、「特に参考にする情報はない」が46.1%であった。「病院を選んだ後」で参考にした情報も、「がんの治療件数」（20.7%）が最も多く、次いで、「がんの治療成績」（18.0%）、「がんの診療科の医師の業績」（15.2%）であり、「特に参考にする情報はない」が45.2%であった。

「家族のがん経験」回答群では、「病院を選ぶとき」に参考にした情報は、「がんの治療件数」（20.4%）が最多で、「がんの診療科の医師の業績」（19.6%）、「がんの治療成績」（18.5%）、「治療のための設備の整備状況」（16.5%）が続き、「特に参考にする情報はない」が52.1%であった。「病院を選んだ後」に参考にした情報は、「がんの治療件数」（13.5%）が最多で、「がんの診療科の医師の業績」（12.1%）、「がんの治療成績」（11.6%）、「治療のための設備の整備状況」（10.2%）が続き、「特に参考にする情報はない」が57.0%に達した。

「回答者自身」および「家族」にがん経験がなく、もしがんと診断された際を想定して回答した「想定」回答群では、参考にする情報として、「がんの治療成績」（43.8%）が最も多く、「がんの治療件数」（39.6%）、「治療のための設備の整備状況」（30.8%）、「がんの専門医の数」（30.6%）の順で、「特に参考にする情報はない」は21.5%であった。

「自身のがん経験」回答群、「家族のがん経験」回答群を比較した際に、「面会時間」、「保険診療以外にかかる費用」については、「病院選択後」の方がやや多い傾向はあった。

(4) がん治療病院選択にあたって参考にした情報媒体

がん治療病院の選択にあたって、および、選択後に利用した情報媒体について、図3に示した。

「自身のがん経験」回答群では、「治療を受けた病院が発信するウェブサイト」（選択前38.5%、選択後36.1%）が最も多く、次いで「家族・友人・知人の口コミ」（選択前33.3%、選択後27.7%）、「治療を受けた病院の相談窓口」（選択前25.6%、選択後26.8%）、「ウェブサイト『がん情報サービス』」（選択前24.8%、選択後21.0%）であった。

「家族のがん経験」回答群では、「家族・友人・知人の口コミ」（選択前46.0%、選択後42.3%）が最も多く、「治療を受けた病院が発信するウェブサイト」（選択前25.9%、選択後21.2%）、「治療を受けた病院の相談窓口」（選択前23.0%、選択後22.4%）、「ウェブサイト『がん情報サービス』」（選択前19.5%、選択後10.9%）であった。

D. 考察

がん治療病院の選択にあたって、治療病院の選択にあたって迷った人は、「自身のがん経験回答群」で24.9%、「家族のがん経験回答群」で21.5%で、これらの割合に医療機関の多い大都市圏と、医療機関の限られる非大都市圏で有意な差はなかった。また、がん治療病院選択にあたって重視した理由として、「自身のがん経験」回答群では、「がん診断を受ける前に検査等を受けた別の病院の医師に紹介されたから」を挙げた人が最も多く、28.6%、「家族のがん経験回答群」でも17.4%で上位に挙げられた。また、がん治療病院の選択時に、参考にした情報は特になし、と回答した人も「自身のがん経験」回答群で46%、「家族のがん経験回答群」で52%と約半数に上っていた。これらの点から、一定数の患者はそれほど困らずにがん治療病院を選択できていると推察できる。

しかし、「迷った」と回答した2割の患者がいること、参照した情報としては、治療数や治療成績、医師の業績が上位に挙がっていたことは、これらの情報が患者、家族にとってわかりやすく提示される必要があることが示唆される。「治療成績」「医師の業績」といった指標は、一元的に示すことが困難であり、また、指標だけが独り歩きすることも危惧されるものである。長期にわたるがん治療には通いやすさ等の利便性も重要であることなど、病院選択に必要な要素について十分に知ったうえで、自分が優先したい事項に関する情報が得られる環境づくりが求められると考えられた。

がん治療病院の選択にあたって最も利用されていた情報媒体は、「治療を受けた病院が発信するウ

ェブサイト」、次いで「治療を受けた病院の相談窓口」「ウェブサイト『がん情報サービス』」であった。個々の病院が発信するウェブサイトや相談窓口を利用することで具体的な情報を得られることは容易に推察されるが、「どの病院で治療を受けるかを選択する」段階で情報を求めている人にとっては、情報を一覧に示した提示も望まれるであろう。それぞれの医療機関の特徴をわかりやすく示し、納得して選択できたと意識できる情報の提示の仕方を工夫する必要があると考えられた。

E. 結論

長期にわたるがん治療には通いやすさ等の利便性も重要であることなど、病院選択に必要な要素について十分に知ったうえで、治療数や治療成績等、自分が優先したい事項に関する情報が容易に得られる環境づくりが求められると考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 書籍発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得 特になし

2. 実用新案登録 特になし

3. その他 特になし

【引用文献】

・ de Cruppé W, Geraedts M. Hospital choice in Germany from the patient's perspective: a cross-sectional study. BMC Health Serv Res. 2017;17(1):720. Published 2017 Nov 13. doi:10.1186/s12913-017-2712-3.

・ 八巻知香子, 高山智子. 信頼できるがん情報の提供と研究における患者・市民の参画の試み: 国立がん研究センターがん対策情報センター「患者・市民パネル」のこれまでの活動と今後. 科学技術社会論研究. 18; 128-136. (2020)

表1-1. サンプル地域別・回答者の性別

| | 大都市圏(n=432) | | 非大都市圏(n=424) | | 計 (N=856) | |
|------|-------------|------|--------------|------|-----------|------|
| 男性 | 253 | 58.6 | 229 | 54.0 | 482 | 56.3 |
| 女性 | 169 | 39.1 | 185 | 43.6 | 354 | 41.4 |
| 答えない | 10 | 2.3 | 10 | 2.4 | 20 | 2.3 |

X²検定で有意差なし

表1-2. サンプル地域別・回答者の年齢

| | 大都市圏(n=432) | | 非大都市圏(n=424) | | 計 (N=856) | |
|------|-------------|------|--------------|------|-----------|------|
| 20歳代 | 30 | 6.9 | 60 | 14.2 | 90 | 10.5 |
| 30歳代 | 82 | 19.0 | 64 | 15.1 | 146 | 17.1 |
| 40歳代 | 105 | 24.3 | 126 | 29.7 | 231 | 27.0 |
| 50歳代 | 127 | 29.4 | 104 | 24.5 | 231 | 27.0 |
| 60歳代 | 88 | 20.4 | 70 | 16.5 | 158 | 18.5 |

X²検定でp<.01

表1-3. サンプル地域別・がんの医療機関選択にあたって回答した対象

| | 大都市圏(n=432) | | 非大都市圏(n=424) | | 計 (N=856) | |
|---------------|-------------|------|--------------|------|-----------|------|
| 自分のがん経験について回答 | 109 | 25.2 | 108 | 25.5 | 217 | 25.4 |
| 家族のがんについて回答 | 120 | 27.8 | 133 | 31.4 | 253 | 29.6 |
| 想定を回答 | 203 | 47.0 | 183 | 43.2 | 386 | 45.1 |

X²検定で有意差なし

表1-4. サンプル地域別・がん以外の大きな病気の治療機関選択にあたって回答した対象

| | 大都市圏(n=432) | | 非大都市圏(n=424) | | 計 (N=856) | |
|----------------|-------------|------|--------------|------|-----------|------|
| 自分大きな病気について回答 | 109 | 37.3 | 108 | 39.4 | 217 | 38.3 |
| 家族の大きな病気について回答 | 120 | 22.7 | 133 | 27.4 | 253 | 25.0 |
| 想定を回答 | 203 | 40.0 | 183 | 33.3 | 386 | 36.7 |

X²検定で有意差なし

表2-1. 自身のがんの治療病院の選択での迷い

| | 大都市圏(n=109) | | 非大都市圏(n=108) | | 計 (n=217) | |
|-----------|-------------|------|--------------|------|-----------|------|
| | % | | % | | % | |
| 迷った | 15 | 13.8 | 13 | 12.0 | 28 | 12.9 |
| やや迷った | 17 | 15.6 | 9 | 8.3 | 26 | 12.0 |
| どちらでもない | 8 | 7.3 | 19 | 17.6 | 27 | 12.4 |
| あまり迷わなかった | 17 | 15.6 | 19 | 17.6 | 36 | 16.6 |
| 迷わなかった | 52 | 47.7 | 48 | 44.4 | 100 | 46.1 |

X²検定で有意差なし

表2-2. 家族のがんの治療病院の選択での迷い

| | 大都市圏(n=109) | | 非大都市圏(n=108) | | 計 (n=217) | |
|-----------|-------------|------|--------------|------|-----------|------|
| | % | | % | | % | |
| 迷った | 22 | 12.5 | 14 | 7.5 | 36 | 9.9 |
| やや迷った | 20 | 11.4 | 22 | 11.8 | 42 | 11.6 |
| どちらでもない | 34 | 19.3 | 45 | 24.1 | 79 | 21.8 |
| あまり迷わなかった | 35 | 19.9 | 42 | 22.5 | 77 | 21.2 |
| 迷わなかった | 65 | 36.9 | 64 | 34.2 | 129 | 35.5 |

X²検定で有意差なし

図1. がん治療病院選択にあたって重視・最も重要視する理由

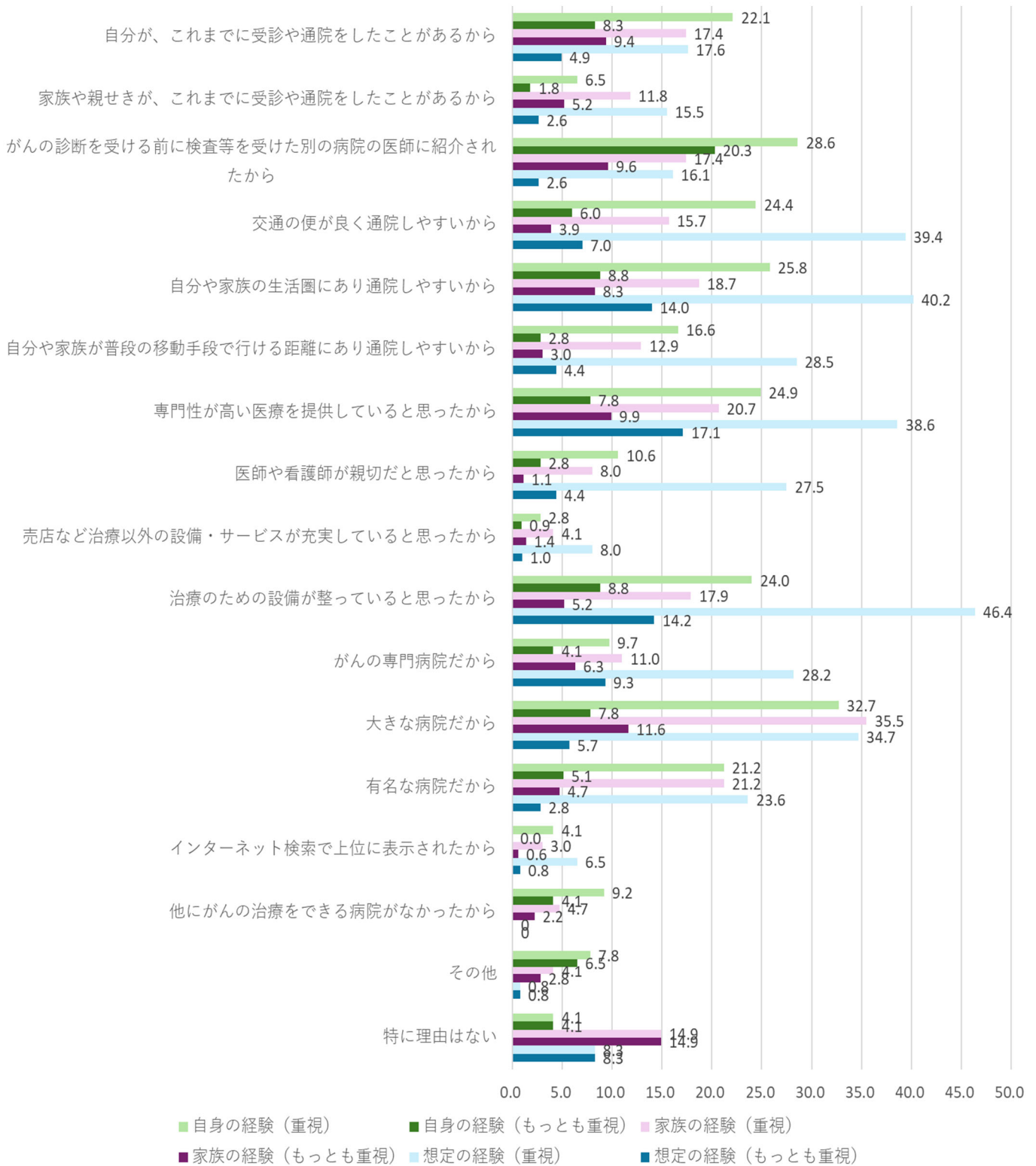


図2. がん治療病院選択にあたって参考にした情報

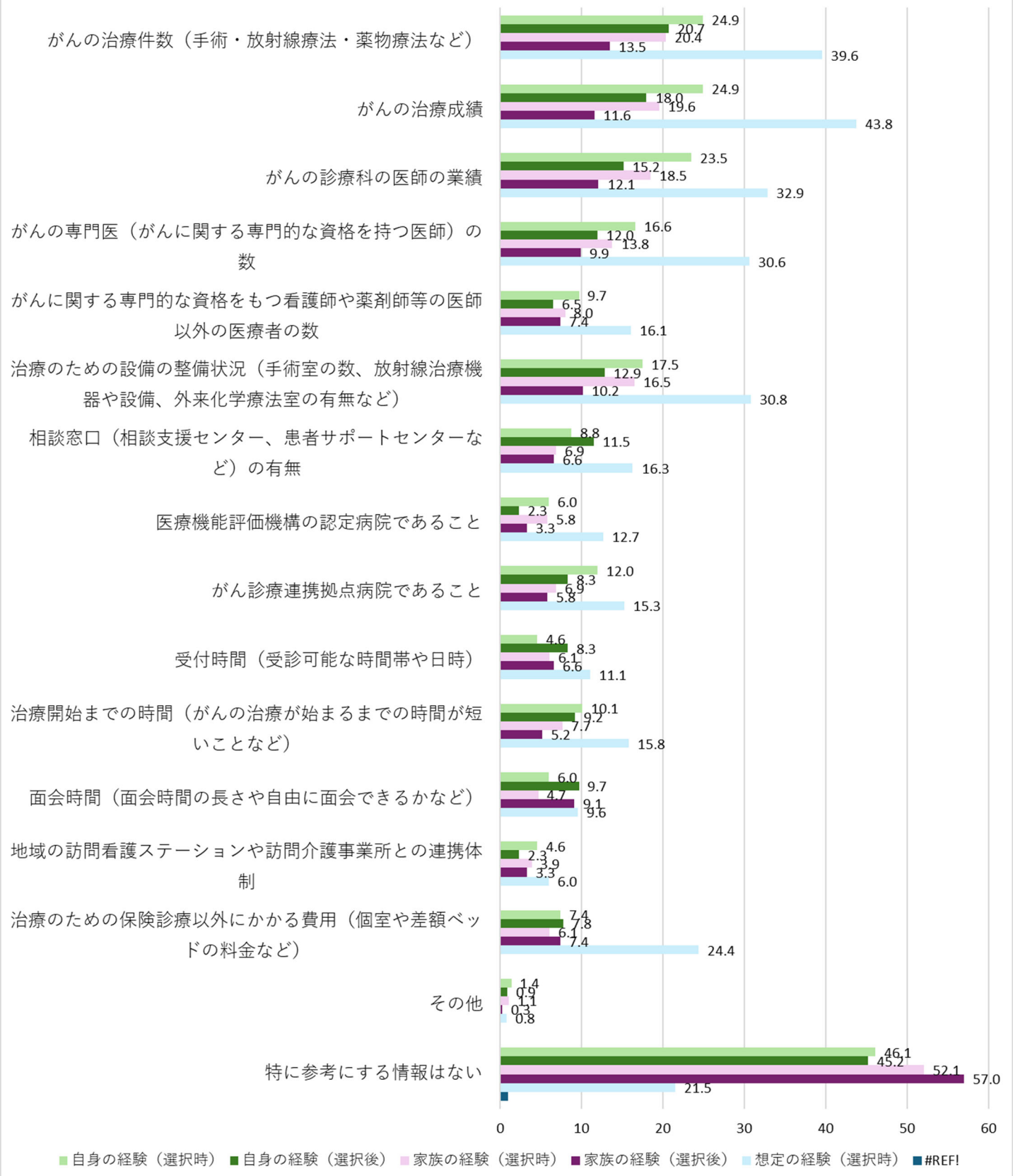


図3. がん治療病院選択前後で利用した情報媒体

